

モスルの大虐殺

市民の死傷規模が明らかになるにつれて、この都市を ISIS から取り戻す戦いで、4 万人が死んだと思われる

【訳者注】モスルを占領していたイスラム国が、イラク政府軍によって一掃され、ついに ISIS の最大拠点落ちた、ヤッター、というような調子のニュースを聞いて、いろいろわからない点のあった方は、これを読めば、非常によくわかるのではなからうか。この記事の情報源になっている人は、モスルで生まれ育ったクルド人で、昨年までイラク政府の重要ポストを占めていて、今クルド族の指導者という立場の人だから、十分に信頼できるであろう。イラク政府といっても、背後にアメリカがいること、アメリカにとって ISIS は、邪魔になれば滅ぼすことのできる、しかし、できれば殺したくない貴重な道具だということが念頭にあれば、ここに書かれているすべてが腑に落ちる。

すべてが賄賂で動く、完全に「墮落」した、つまり自国と自国民を捨てたイラク政府というのが、キーポイントである。このイラク政府とアメリカにとって、どうやって市民を救うかというようなことは、問題にならなかったはずである。とにかく無差別に殺せばよい。モスル再建の計画がこの国に全くないというのが、それを物語る。このモスル奪還戦争は、アメリカがイラクを墮落させてモスルを手に入れた、アメリカの勝利といってよいだろう。

Patrick Cockburn

July 19, 2017, Information Clearing House



独占記事：多くの死体がまだ瓦礫の下に埋まっており、人間の苦しみは“最大級”に達している、とあるクルド族トップ高官が、最も新しい情報を、パトリック・コックバーンに伝えてきた。これは、このカリフ国の最後の日々についての、コックバーンの一連の報告の最後のものになる。

4 万人以上の市民が、ISIS からモスルを奪還しようとする壊滅的な戦いで殺された、と英

紙「インデペンデント」に独占的に明らかにされた情報は言っている。この死者数は、以前に推計されたものを遥かに上回っている。

<http://www.independent.co.uk/news/world/middle-east/mosul-latest-iraqi-government-forces-recapture-city-heaviest-defeat-a7832186.html>

包囲されたこの都市の住民は、戦闘員を追い出そうとするイラクの地上軍によって、空爆によって、また ISIS 戦闘員によって殺された、とクルド族情報局は伝えている。

最近までバグダッド政府の長老メンバーだった Hoshyar Zebari は、インデペンデント紙に対し、多数の死体が「まだ瓦礫の下に埋もれている」と話した。「人間の苦しみは最大のレベル」だと彼は言っている。

「クルド族情報局は、巨大な火器が市民に向けて用いられた結果、4 万人以上が殺されたが、それは特に、連邦警察部隊、空爆、それに ISIS 自体によるものと考えている」と、ゼバリ氏は付け加えた。

ゼバリ氏は、モスルで生まれ育った、クルド族トップ高官であり、これまでイラクの金融担当相、それ以前には外務大臣を務めた人物だが、ある独占インタビューで、現実には重装備をした連邦警察部隊は、容赦ない砲撃によって、西部モスルに最大級の破壊と人命の損失をもたらしたと強調した。

9 か月間の包囲の間に殺された市民について、ゼバリ氏があげる数字は、これまでの報告されていたものより遥かに大きい。しかし、クルド族領土政府の情報局は、非常に正確で、十分な情報に基づくものという評価が高い。ISIS は死傷者のモニタリングを妨害しており、一方、外来集団は、市民の死の原因として、砲撃やロケット攻撃よりも、ほとんど空爆だけに注目してきた。そのようなモニタリング集団の一つ Airwars は、2017 年の 2 月 19 日から 6 月 19 日間に、この都市で、5,805 名の非戦闘員が、攻撃されて死んだと推計した。

ドローン攻撃のフィルムが、モスルの旧市街の大破壊と、壊されたアルヌーリのモスクの様子を映し出している。

ゼバリ氏は、自分が最近まで閣僚だったバグダッド政府を、人の苦しみを軽減する十分な努力をしていないと非難している。「ひょっとして、この政府は、起こったことに無関心なのかと思うほどだ」と彼は言った。彼は、何世紀もモスルやその周辺に暮らしてきた、キリスト教徒、ヤジディ教徒、クルド族や、他の少数派が、彼らを殺し強姦していると非難している、スンニ派のアラブ多数派と、和解できるとは思えないと言っている。彼は、将来の政府

のためには、何らかの連邦の形がベストではないかと言う。

<http://www.independent.co.uk/news/world/middle-east/mosul-sunni-residents-isis-collaboration-persecution-city-liberation-iraq-fighters-killed-massacres-a7839716.html>

クルド族情報局の報告を読みながら、ゼバリ氏は、今モスルを占領しているイラク軍の間の墮落があまりに酷く、敗退したあとの ISIS を抑えるための安全保障措置が、踏みにじられていると言っている。犯罪容疑をかけられた者たちが、1,000 ドル払えば軍の検問所を通過でき、1,500 ドルで車ごと通過することができる、と彼は言う。彼は、この種の腐敗は、16 世紀と 9 世紀のイラク軍に、特にひどかったと言う。

ISIS 戦闘員が賄賂を払って、自由なままでいたり、拘束から解放されたりすることができるために、モスルの人々は、態度を変えるようになった。この人たちは「以前は、イラクの安全保障軍メンバーに、喜んで情報を提供したものだ」とゼバリ氏は言う。彼らは今、用心してそれはしなくなった。なぜなら、彼らが前に密告して、逮捕されていた ISIS のメンバーが、通りへ戻ってきて、密告した者たちに復讐できる状態になっているからである。モスルの何人かの反 ISIS の人々は、インデペンデント紙に、この状態を説明し、このような戻ってきた者たちや、まだ存続している ISIS の“ねぐら”を、自分たちは怖れていると訴えた。<http://www.independent.co.uk/news/world/middle-east/isis-mosul-iraq-fighters-killed-thrown-off-buildings-reasons-corruption-revenge-patrick-cockburn-a7845846.html>

モスルの市民が言うには、反テロ軍 (CTS) のような、戦いの矛先をもっていた部隊の、彼らに対する振舞いを咎めるつもりはないが、もっと訓練のできていない部隊が、何をすることが心配なのだ。モスルに拘束されていた ISIS の戦士や将官が、後に賄賂を払って自由の身になれると知ったために、賄賂のネットワークに共謀していない兵士たちが、ISIS の捕虜を即決裁判にかけ、高いビルから突き落として殺すというようなことが起こっている。

<http://www.independent.co.uk/news/world/middle-east/mosul-isis-militant-execution-video-throw-off-cliff-shot-iraq-soldiers-eye-twitter-fighters-islamic-a7840726.html>

モスルを占領している軍隊の墮落は、さまざまな形を取っていると、ゼバリ氏の引用するクルド族情報局の情報は言っている。「ある人々は、瓦礫から死体を取り出すのに 100 ドルを要求され、別の人々は、まだ立っている自分の家に戻るのに、500 ドル要求されている」。イラクの軍部や部隊は、常に悪名高く、荷物を積んだトラックを動かすとき、市民から保護料などの料金を取り立てており、特に軍の検問所を通るときには、儲けの対象になる。

西モスルの大災害レベルの破壊をもたらしたものは、多く空爆ということになっているが、

破壊の多くが、地上の砲撃やロケットによることは明らかだ。これは先週、発行されたアムネスティ・インタナショナルの、*At Any Cost: The Civilian Catastrophe in West Mosul* と題する報告で確認できる。それは、東モスルへの攻撃の最終段階で、親政府軍による火器の使用が、より盛んで、より無差別的だったことを指摘しており、それは 2017 年 1 月に始まり、西モスル攻撃の間の、次の 6 か月間続いた。この報告は、イラク政府とアメリカ主導の連合軍は、「IRM（改良ロケット援助兵器）のような広域効果をもつ爆発兵器に、大きく依存していた」と言っている。「その大まかな狙いによって、これらの兵器は、人口密度の高い西モスルに大災害をもたらし、その市民の大多数は、わが家、または間に合わせのシェルターに閉じ込められた」。国連の推計では、包囲の始まった時点で、モスルには 120 万の住民がいた。

加えて、ISIS の狙撃兵たちが、逃げようとした市民たちの多数を殺した。彼らがいなくなると、ISIS が必要とする“人間の盾”がなくなるからである——といっても結局、彼らの存在は、ほとんど何の盾にもならなかったが。ゼバリ氏によると、情報局は、「ISIS 戦士からその司令官へ、我々は市民を殺すことに飽きたと言っている」メッセージを盗聴させている。

ゼバリ氏は、イラク政府がモスル再建の計画を持っていないことに、失望したと言っている。昨年末まで、バグダッドの財政担当相だった人として、彼はモスル再建のための予算として、5 億ドルを計上していた。彼は言う——「私は、先行投資として 5 億ドルを要求し、他の寄付者に勇気を与えようとした。しかし今、政府はそのファンドから身を引き、そのカネを別のところで使った。これは希望を持たせる兆候ではない。」

たとえ再建がなされたとしても、モスルで育ち、いまだにこの都市の東部に家をもっている（とうの昔に、初めサダム・フセインによって、後に ISIS によって没収されたが）ゼバリ氏は、「モスルの魂は失われ、そのイコニックな建物は破壊された」と嘆いている。彼は、Nabi Yunus のモスク（ヨナの墓）のないモスルは想像できないと言う。それは 2014 年に、異端の寺院だとして ISIS に爆破され、12 世紀の斜塔、傾くミナレット（光塔）をもつ al-Nuri モスクも、政府軍による占領を防ぐ戦いの最終局面で、ISIS に破壊された。加えて、「住処を失った 100 万以上の人々の、想像を絶するレベルの痛み」がある。

<http://www.independent.co.uk/voices/mosul-minaret-mosque-iraq-isis-a7814366.html>

<http://www.independent.co.uk/news/world/isis-grand-mosque-al-nuri-blow-up-destroy-mosul-caliphate-al-baghdadi-latest-a7801846.html>

彼は、広い領域を支配する国家構造としての、イスラム国を破壊することによって、政府が大きな勝利を得たのは確かだと言う。しかし彼は、ISIS が「新しい現実に対応する」能力

を示したことは警戒すべきだと言う。彼は、ISIS が 2014 年にモスルを占領したときに分捕った、3つのイラク軍（陸海空）の武器や重装備の行方が、十分に説明されていないと言っている。その多くは、トンネルや、西イラクや東シリアの乾燥した荒地の、峡谷や平地に隠されているという噂があると、彼は言っている。「それは彼らが攻撃を始めたときに、出てきた場所だ」と彼は言う。

自称カリフの Abu Baqr al-Baghdadi が、生きているか死んでいるかを問われて、ゼバリ氏は、知らないと言った。しかし彼は付け加えて、もしバグダディが死んでいるなら、新しいカリフとか ISIS リーダーが宣言されていないのは不思議だと言った。なぜなら、そのような動きのあった場合には、一人の人間に頼らないのが彼らの主義だからだ。イラクのアルカーイダのリーダー Abu Musab al-Zarqawi が、2016 年、アメリカの空爆で死んだとき、またオサマ・ビンラーディンが 2011 年、パキスタンで、米特殊部隊によって射殺されたとき、後継者が直ちに発表された。それだけでなく、「これまで、ISIS の司令部や支配機構に、何の変化の兆しも見えていない」と彼は言っている。

——以上